



十勝川治水100年  
トークリレー 100年

本校の校舎北西を流れる、十勝川水系「機関庫の川」。自然豊かな身近な川辺として、昔から周辺住民や子どもたちに親しまれる存在です。本校の子どもたちは、校舎のテラスから中庭に出て、ほんの数秒でこの川に入ることができます。

本校の教育課程の土台となるのはキャリア教育です。子どもたちが、さまざまな課題に対して柔軟にたくましく対応し、希望をもって自分の未来を切り開いていく人に育つことを願い、カリキュラムマシメントを進めています。中でも、機関庫の川を活用した学びは、子どもたちが自然環境の素晴らしさや不思議さ

## 機関庫の川広がる学び

などに気付き、探究活動へとつなげ、自然と関わりながら生きる自身の生き方を考えます。これはキャリア教育で身に付けたい力と強く結び付いており、本校にとってなくてはならない学びとなつています。

帯広豊成小学校教頭 宍戸文絵さん



この学びは、多くの関係機関、ボランティアの皆さまに支えられています。低学年は近隣の帯広北高生に手を引かれて初めての川を体験し、3年生は「NPO十勝多自然ネットワーク」のガイドの方々に生き物の捕まえ方や機関庫の川の生態系を学びます。昨年8月に本校で開催した「全国河川教育実践研究会」では、子どもたちが地図上の河川を歩いてたどることができ、8月四方の大型地図や十勝川の流域模型を帯広開発建設部に作成していただき、高学年が疑似体験を通して学びを深めることができました。

2012年から続くこうした取り組みは、河川財団の河川基金助成事業（22年度）、優秀成果表彰（20、23年度）を受賞しました。子どもたちのみずみずしい感性を育て、身近な環境との関わりを教えてくれる機関庫の川。さまざまながりに支えられ、今日も子どもたちの学びは広がっています。

（おわり）

## 十勝川治水100年記念事業

## トークリレー



帯広豊成小学校  
教頭 宍戸 文絵 氏



十勝毎日新聞  
令和5年10月10日 3面 掲載